

江戸期の変化朝顔

アサガオは奈良時代に薬草として中国から渡来したといわれますが、日本では花を楽しむ園芸植物として栽培されるようになりました。江戸時代には、自然突然変異によって生まれた珍しい花を大切に育てた変化朝顔と呼ばれるアサガオが流行しました。この頃に作られた変化朝顔の多くは、九州大学と愛好家などの努力により現代に受け継がれています。



采咲牡丹 (m, fl, dp)



繡牡丹 (m, dp)



采咲牡丹 (m, dp, ac)



采咲牡丹 (m, fl, dp)



草吹牡丹 (cp, m, dp)



白咲孔雀八重 (cp, ac, dp)

変化朝顔の変異遺伝子

()内の文字はこれまで知られている変異遺伝子の略号で、形質を英語で表したもののから2~3文字を選んでいきます。

たとえば、*fe* は *feathered* (日本名: 獅子)の略で、葉にしわがあり花びらが裂けるのが特徴です。

dp は *duplicated* (日本名: 牡丹)の略で、花の中につぼみを幾重にももちます。

これら2つの変異遺伝子をもつと、写真のような獅子咲牡丹となります。

各遺伝子に関する詳細は、九州大学理学部生物学教室アサガオホームページ

<http://mg.biology.kyushu-u.ac.jp/> をご覧下さい。



現存しない変化朝顔（江戸時代の画集より）

奇葉・奇花を楽しむ変化朝顔ブームの中で、アサガオを専門に扱った朝顔図譜が刊行されました。

その中には、現在では見ることのできない様々なアサガオが描かれています。

あさがお叢
(1817)



巻絹



極黄糸

三都一朝
(1854)



台咲

朝顔三十六花撰
(1854)



黄花



四曜



桐(六曜、唐花咲)